

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302263		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	郡山ケアハートガーデン グループホーム「あさかの郷」		
所在地	福島県郡山市安積町南長久保一丁目85-2 (電話)024-937-3932		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.11.5	評価確定日	H20.12.25

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤17人, 非常勤 2人, 常勤換算16.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 84.8歳	最低	48歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	針生ヶ丘病院, 岡沼内科, 佐藤眼科医院, わたなべ歯科クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、郡山市の中心部にも近い市内南部の新興住宅の中にあり、オール電化の2階建てとなっており、1階と2階に分かれた2ユニットに17名が入居している。近隣には、公園、コンビニ、スーパーがあり、外出や散歩等に便利な場所である。6月に替わった新しい管理者の元で、管理者と職員がコミュニケーションを密にし、これまでのサービスや業務内容を再検討しながら、よりよいサービスの実施に向けて日々努力している。特に、認知症介護研究・研修東京センター方式を取り入れながら、利用者を深く理解しようと取り組んでいることが、今後のサービスの質の向上に繋がっていくものと期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、改善課題はなかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が中心になりユニットごとに職員全員で自己評価に取り組んだ。自己評価結果は家族にも報告しており、事業所の状況がよくわかったという感想を家族からいただいている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は、2カ月に1度開催されている。メンバーは、利用者家族、町内会役員、民生委員、老人クラブ代表者、地域包括支援センター職員、管理者、事業所運営会社の担当課長等で構成されている。毎回、事業所からの報告とともに、運営に関し出席者から情報や助言(ボランティアの紹介、避難訓練のアドバイス、地域行事の案内等)をいただいております。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が来たときは、その都度利用者の生活状況を報告している。遠方の家族には、広報誌(年4回発行)に行事の写真を同封するとともに、利用者の生活状況を手書きで一筆添えて郵送している。また、職員用に作成した意見要望情報カードに利用者や家族との会話の中から把握した意見や要望を記録し、その内容をもとに改善案をユニット会議で話し合い、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し地域の行事に参加している。近隣の幼稚園児が、毎年敬老会やクリスマス会に事業所を訪問しているほか、お茶や陶芸のボランティアが事業所に訪問していただいている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時に職員間で話し合い、自分がここで生活するとしたらということを考え、「その人らしさを大切に、家族との連携を密に、地域とのふれあいを大切に、そして愛されるグループホームを目指します」という理念をつくった。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に出勤者全員で理念を声を出して読むようにしている。また、職員採用時には必ず理念を説明している。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域の行事(盆踊りや秋祭り等)に利用者も参加している。近隣の幼稚園児が、毎年敬老会やクリスマス会に事業所を訪問しているほか、お茶や陶芸のボランティアが事業所を訪問している。立地条件を生かし、交流する人や年代の範囲を広げることが課題となっている。		これまで以上に地域との交流の幅を広げるため、運営推進会議でも協議し、近隣の小学校や中学校の行事に利用者が参加したり、小学生や中学生が事業所を訪問する機会を作るよう取り組んでほしい。
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価では、改善課題はなかった。今回の自己評価は、管理者が中心になりユニットごとに職員全員で自己評価に取り組んだ。自己評価結果は家族にも報告しており、事業所の状況がよくわかったという感想を家族からいただいている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2カ月に1度開催されている。メンバーは、町内会役員、民生委員、老人クラブ代表者、地域包括支援センター職員、管理者、事業所運営会社の担当課長等で構成されている。毎回、事業所からの報告とともに、運営に関し出席者から情報や助言(ボランティアの紹介、避難訓練のアドバイス、地域行事の案内等)をいただき、有効に機能している。</p>		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が利用者に面会に来たときは、その都度利用者の生活状況を報告している。遠方の家族には、広報誌(年4回発行)に行事の写真を同封するとともに、利用者の生活状況を手書きで一筆添えて郵送している。金銭管理は出納帳に記入し家族へ毎月報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所独自で職員用に作成した意見要望情報カードに利用者や家族との会話の中から把握した意見や要望を記録し、その内容をもとに改善案をユニット会議で話し合い、運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者ごとに担当職員を決め、利用者が安心できるようにしている。また、職員がユニット間の異動でかわる場合は、引継ぎ期間をとるようにしている。新規に採用した職員や利用者や家族に紹介している。退職者については、利用者へは伝えられているものの、事業所として家族へは報告していない。</p>		<p>新規採用者と退職者を事業所で発行している広報誌で紹介するなどして、事業所として家族に職員の異動状況等を報告し、家族に不安感をいだかせない取り組みを行ってほしい。</p>


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県グループホーム連絡協議会等の研修会に職員を参加させている。外部研修への参加後は、事業所内の全体会議で内容を報告し職員間で共有している。また、事業所運営法人が全国に数箇所グループホームを運営しており、法人としてリーダーや中堅職員を育成する研修を行っているが、事業所としての新採用職員の育成が課題である。		新規採用者の中には、認知症介護の未経験者もあり、小規模なグループホームでの業務に戸惑う場合もあるため、新規に職員を採用した場合に習得してもらう内容を含め簡単な新採用職員育成プログラムを作成するとともに、職員の経験等に応じて個人ごとに計画的に育成(資格取得含む)を行ってほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県中地区グループホーム連絡協議会主催の研修会時を活用し、他の事業所職員と交流を行っている。また、事業所運営法人の全国研修が年数回開催されるため、他県のグループホーム職員とも交流をし、サービスの質の向上に生かしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の趣味や好きなことを職員も一緒に行いながら、利用者から多くのことを学んでいる。利用者のやりたいことを尊重し、出来るように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究・研修東京センター方式を取り入れながら、各職員が把握した利用者の思いや意向を利用者ごとに集約し、職員間で共通理解をするようにしている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回開催している利用者の介護上の課題を検討する会議(ケース検討会)において、担当職員と管理者のほかに必要に応じて利用者や家族を交えた話し合いを行い、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しが必要な利用者については、月1回開催している利用者の介護上の課題を検討する会議(ケース検討会)において管理者と職員が話し合い、必要な介護計画の見直しを柔軟に行っている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は、利用者や家族の希望するかかりつけ医が事業所の協力医にするか選択できるようにしている。どちらであっても、適切な医療が受けられるよう、事業所としては通院時の付き添いなどの支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関しては、事業所として対応できる範囲を利用開始時に家族へ説明するとともに、必要に応じかかりつけ医や協力医とも話し合っている。終末期に向けた方針については、まだ事業所として明確にしていない。		再度現在の利用者の身体状況や家族の状況、さらに利用者や家族の意向等も踏まえて職員間で充分話し合い、重度化や終末期に向けた方針を事業所として明確にしてほしい。その上で、家族やかかりつけ医、主治医と方針を共有してほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー、個人の尊厳を傷つける事のない様、注意して支援している。個人情報保護の社内マニュアルにより取り扱いに留意し、個人情報は鍵のかかる場所で管理している。また、面会簿は利用者ごとに記入するようになっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは設定してあるが、あくまでも利用者本人の希望や思いを優先している。趣味や買い物等を体調を考慮しながら柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が協力しあい、会話を楽しみながら食事の準備や後片付けを行っている。食事は季節の野菜や旬のものを取り入れ、マンネリ化しないよう行事食や週一回(水曜日)のお好みメニューを取り入れている。職員も利用者とお話をしながら、同じテーブルで食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯を決めてしまわず、本人の意思を尊重し、柔軟に対応している。入浴をしたがらない利用者については、要因を検討しながら徐々に入浴回数が増えるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者が好きなことや得意なことを活かし、掃除や洗濯物たたみなどの役割を担っていただいている。また、できるだけ希望に沿って、散歩をかねた買い物をする等の支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩をかねた買い物をすることもあるが、外出の機会が多いとはいえない。家族からも日常的に外出の機会を増やしてほしいとの要望がでている。このことは、事業所でも十分認識している。		外を歩くことにより得られる効果は大きいので、季節や利用者の体調や希望を考慮しながら、利用者ごとに計画的に必要な外出を支援してほしい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中居室や玄関には鍵をかけていない。利用者が外に出たそうになっているときは、職員も一緒に付き添うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練や救出方法の訓練を地域住民にも参加していただき実施した。また、夜間を想定した避難訓練も実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食残食量をチェックし、水分摂取量も把握している。利用者が、嫌いなものが食膳に載れば変更し、また、医師の指導を受け、バランスをとり、全食摂取出来るよう、調理方等、工夫している。		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オール電化ということでエアコンによる暖冷房で快適な温度と湿度に調整されている。小上がりの茶の間にある床の間には、唐代の詩人が詠んだ掛け軸が飾ってある。居間兼食堂は日当たりが良く、季節の鉢植も置いてあり、利用者は落ち着いた雰囲気の中で過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら、希望に沿った居室となるようにしている。居室は、利用者が落ち着けるよう配慮されており、利用者が思い思いのもの(家族の写真、三面鏡、使い慣れた筆筒等)を持ち込んでいる。		

 は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム あさかの郷

記入担当者名 山寺 イツ子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。